

山形県内の減災対策協議会共同による 「最上川水防災セミナー」を開催しました！

1. 概要

- 山形県内に甚大な被害をもたらした「昭和44年8月洪水」から今年が50年目にあたる節目の年として、改めて水害から身を守る防災について考えるきっかけとするため、山形県内の減災対策協議会共同による「最上川水防災セミナー」を開催しました。
- 水害サミットの発起人である兵庫県豊岡市の中貝市長と、防災教育及び避難誘導策のあり方を研究されている東京大学大学院情報学環 片田特任教授を山形に招き、中貝市長から「災害時にトップがなすべきこと」、片田特任教授から「荒ぶる災害への立ち向かい方」について講話を頂きました。

2. 開催概要／実施状況

○日 時：令和元年5月13日（月）15:00～17:00 ○場 所：ホテルメトロポリタン山形

○参加者：約300名（一般住民、市町村・山形県・国の関係機関職員等）

○主 催：山形県内大規模氾濫時減災対策実行委員会

本事業は、（一社）東北地域づくり協会みちのく国づくり支援事業により実施しております。

「災害時にトップがなすべきこと」

中貝市長から、平成16年台風23号による豊岡市での水害の経験をもとに、災害発生時にトップがとるべき対応等についてお話して頂くと共に、豊岡市におけるコウノトリを通じた地域活性化の取組について講話頂きました。



兵庫県豊岡市長
中貝 宗治氏



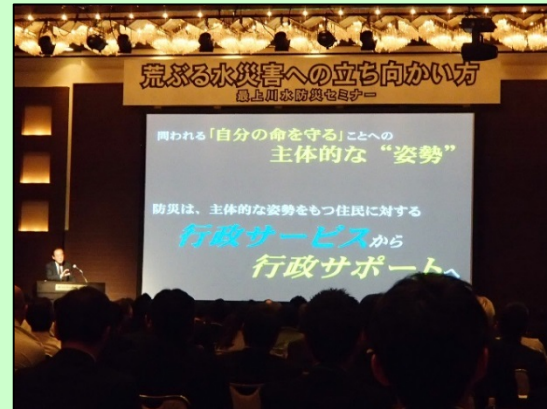
講演の状況

「荒ぶる災害への立ち向かい方」

片田特任教授から、動かない人を動かそうとするためには、その人の心を動かすように思いを伝えることが大事であることをお話して頂くと共に、釜石市における「命の授業(防災教育)」の取組について講話頂きました。



東京大学大学院
情報学環 特任教授
片田 敏孝氏



講演の状況